



・発行・
京都障害者
スポーツ
振興会
題字 芝田 徳造

京都障害者スポーツ振興会設立
40周年記念シンポジウム

「40年の歩みを踏まえ、
障害者スポーツの今と未来を創造する」(1)

日時 平成23年11月3日(祝)

場所 ウエスティン都ホテル
コイデイナーター

芝田徳造
(京都障害者スポーツ
振興会顧問)

シンポジスト
水谷 裕
(京都障害者スポーツ
振興会会長代行)

辻井 武
(京都障害者スポーツ
振興会つどい委員長)

堀川裕二
(日本卓球バレー
連盟副会長)

芝田徳造

昭和46年に川面幸男さん、故下村源次郎さん、水谷裕さんと4人で活動をはじめ、40年たちました。設立から今日までの活動を振り返り、これからの障

害者スポーツのあり方を話し合っていきたい。水谷さんは設立から今日までの活動の紹介を、辻井さん

は振興会の活動の原点である障害者スポーツのつどいについて、堀川さんは全国的に卓球バレーの普及に取り組みられている状況の紹介について、それぞれ話して頂きます。

水谷裕

振興会発足の数ヶ月前に府立障害者福祉センターの体育指導をされていた芝田先生から、障害者が日常的にスポーツができる環境を作りたいという熱い思いを聞いた。施設・団体・養護学校の体育スポーツ担当者、働きかけ振興会を立ち上げた。現場の体育・スポーツ担当者に働きかけたことに意義がある。

父母の会、会長の「学校を卒業すれば、スポーツをする場がない」という言葉を聞き、府民開放型の府立体育館が場を提供され障害者スポーツのつどいを始めた。毎月ピラを印刷し施設に行き参加を呼びかけた。器具を持参して巡回スポーツ教室を行ったり、車いすバスケット、スポーツキャンプなどに取り組んだりした。スタッフ自分たちでやれることを行つていこうという強い思いがあった。

辻井武

昭和47年7月から障害者スポーツのつどいを開催し、今年10月で465回を迎えた。毎回160人位の参加者と、20から25人位のスタッフで行っている。つどいで卓球バレーは

鳴滝養護学校部活動参加し、筋ジスの子供だけでなく誰にでも出来ること、理解され、普及につながった。普及することができた。普及すること、障害があっても激しいスポーツがしたいという思いで行った。九州でよく行われていた風船バレーも、つどいにルールを合わせて行なうなど、新しい種目も作り上げてきた。

つどい450が終わった直後から、つどい500回記念大会に向け、つどい大切にしていくことは何かと話し合ってきた。以下の3点がスポーツつどいで大切に行っていることを確認した。

「はじめの一步」人とふれあいの場、安心できる場、私にもできることがあることを発見する場、ボランティアができる場

「いっしょにやろうよ、楽しもうよ」障害を持つ人はスポーツをする人、スタッフはスポーツを教えるという関係ではなく、参加者もボランティアも一緒にスポーツを楽しむ場。

「もつと輪を広げよう」つどいのいろんなスポーツの取り組みを多くの人に知ってもらい、継続して参加してもらおう場。

堀川裕二

大分県は東京パラリンピック選手団団長の中村裕医師の障害は「手術よりスポーツ」という言葉を受け、県内で障害者スポーツを始め、50年になる。京都にいらるときは京都国体のふれあい演技の副部長を務めた。(裏面 最下段へ続く)

行事予定	11月	20(日)	236回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	来月のつどいは 12/11 第2日曜日
		23日(水・祝)	乙訓障害者スポーツのつどい	向日市民体育館	
		27(日)	第22回全京都車いすハンドボール大会	京都市障害者スポーツセンター	
			城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
	12月	2(金)	第7回京都市精神障害者バレーボール大会	京都市体育館	
	4(日)	第20回ふれあい卓球バレー大会	京都市障害者スポーツセンター		
京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010 http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (2011年10月23日に一部更新)					

車椅子ハンドボール講習会 10月22、29、11月5、12、19、26(いずれも土曜日)
京都府障害者スポーツ指導者研修会 11月26、12月3、10、17、1月7、8(1月8日(日)以外は土曜日)
いずれも京都市障害者スポーツセンターにて

スボ振ルネサンス (43)

〜心でつなぐ活動を〜

京都障害者スポーツ振興会

副会長 水谷 裕

京都障害者スポーツ振興会は、昭和46年11月29日に全国で4番目の障害のある人々のスポーツ活動を支援する運動組織として誕生し、平成

23年11月3日で、満40歳になります。

そこで、先日(平成23年11月3日(木・祝))の文化の日(ウエスティン都ホテル)において、記念行事を持ちました。午前中は、第一部として「40年の歩みを踏まえ、障害者スポーツの今と未来を創造」というテーマで、振興会スタッフを対象の研修的な「記念シンポジウム」を行い、午後からは、第二部として、お客様をお招きして、「京都障害者スポーツ振興会設立40周年記念式典・祝賀の集いをおこないました。

記念式典・祝賀の集いは、山内副知事さん、門川市長さんをはじめ、多くの関係機関・団体の来賓の皆様にご臨席をいただき、ともに、京都障害者スポーツ振興会で活動する仲間と一緒に、創立40周年を盛大に開催できましたこと、

大変うれしく思います。

これも、ひとえに、多くの障害のある皆さんがスポーツを通しての社会参加を实践されたこと、関係機関・団体の皆様のご理解の上での、ご支援、ご協力をいただいたこと、さらに、自らのライフサイクルに取り込み、地道に活動をしてくれたスタッフ(が)が永年振興会活動を守り続けてくれたればこそと、考えており、深く感謝をしております。

思い起こしますと、「障害のある人々がスポーツを日常化できるよう、受け皿となる団体をつくりたい」という、芝田先生の熱い思いに共感をした障害児者の団体、障害者施設、盲・聾・養護学校など、団体の体育・スポーツ担当者で「全京都心身障害者スポーツ振興連絡協議会」としてスタートさせたのですが、財源も何もないところからスタートしたこともあり、活動をどう具体化するかが課題でした。

そういつた中、府民開放型として建てられたばかりの府立体育館の皆さんが、障害のある人々にも使ってもらいたいと場を提供していただき、昭和47年3月「心身障害者(児)ス

ポーツ教室」として、最初に取り組んだ事業が、振興会活動の原点である、現在の「障害者スポーツのつどい」が始められ、今年11月には、466回を迎えます。これは全国的に見ても他府県に類を見ない京都が誇る事業なのです。

この40年、しゃにむに活動をして来て、今日では、京都市障害者スポーツセンターのご厚意で事務局を常設でき、直営事業、委託事業、共催事業、後援事業など関係機関・団体の皆さんにご指導・ご支援・ご協力を頂きながら、年間多くの障害のある人々のためのスポーツ振興事業を実施できるまでになりました。

また、この40年で府内の各地域においての、障害のある人々を取り巻くスポーツ環境が、大きく変容し、日常の生活の一端にスポーツ活動を取り込めるようになって来て、裾野に拡がりを見せてきたことは、障害のある人々のスポーツ活動を支えてきた振興会にとって、大変嬉しいことです。

振興会活動が忙しくなること嬉しさもさることながら、振興会に対する期待と責任が

求められていることを実感しています。

振興会活動は、いうまでもなく、時代の流れによって活動範囲や内容が拡大し、活動するメンバーの多くが入れ替わって行く中であつても、発足当初から、活動の基本理念として掲げ、持ち続けてきた二大活動方針の「スポーツの輪を広げる活動」(すべての障害のある人にスポーツの喜びを)と「スポーツの高度化をめざす活動」(より高いレベルに向けての競技力の向上)をベースに、これらも「すべての障害のある人々にスポーツを！」という言葉を胸に、なお一層、障害のある人々にスポーツ活動へのチャレンジしてもらえる環境を整えていきたいと思ひますので、これからも深いご理解とご支援、ご協力をお願いします。



(表面より)

大分で卓球バレーを始め京都の大会にも3年間連続で参加してきたが、やる人を増やせば京都まで行かなくても地域で普及することが出来と考えた。やれる人が多いスポーツは普及することが出来る。現在、大分県ではユニバーサルスポーツとして卓球バレーを位置づけられている。

現在、九州と山口県の6県が卓球バレー県単位の協会をつくり活動している。今年(山口)国体で公開競技として行われた。4年後の和歌山国体でも公開競技で行われるようになった。10年・20年先を見通して活動している。

指導者育成にも力を入れ、西ブロック公認審判員を制定している。しかし各地で少しずつルールなどが微妙に違うので調整していかなくてはならない。卓球バレーは障害が重い人の競技スポーツであると考えている。

(次号へ続く)

